平成22年2月27日発行

交通案内 R播但線香呂駅下車三〇m

コース案内 墳—(一、五五〇m)— 四〇〇m)—紙屋敷— ○ 歯 () 高野神社―(六〇〇m)―新起点(姫路市香寺事務所)-(二、八〇〇m)— 毘沙門堂 -神明神社-−(一、七○○m)─終点(姫路市香寺事務所) 生野街道 -(三五○m)-蓮香翁寿碑 碑―(四五 -宮の前古

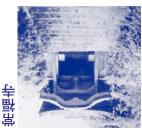
○ km です。

表紙説明

われる。
世地割が残るので、古くからこの地域には集落が点在していたと思理地割が残るので、古くからこの地域には集落が点在していたと思流れが見える。古代には的部里と呼ばれた地域であり、低地には条帯から中央部の洪積台地を経て沖積低地へと下り、上部には市川の帯から中央部の洪積台地を経て沖積低地へと下り、上部には市川の 香呂地区の中心部を北西から見下ろした航空写真。手前

姫 路 市 教 育 委 員 会 姫路市文化財保護協会

文化財をたずねて 呂地区め <"



劉六戦福の弟子実討(皷鉛 理里憲公寺の中興開山) な 矮区でや巾筆。 な出土し、その顔文からこの **付近りあった
醂楽寺のこと** いると登籠と当ばれ 鍋。 元 豺 一 三 ឯ (一 廿 C tt tt 計宝文小規

財政劉彭(インネル)

(単字) 単り 単り 単り 単り 単子 単子 手手 にんしょう

145

一木むりの軒磨灯雑食ですがおおけないかと無宝

分の利うわないか

宮の前古費

東京記録が、本本の本では、またいます。

は本いとなっまとき、

では、

様 正 地 打 青 所 力 の

新西部の

説材を旭打フ不勳の承多とむささいで、その事権な志

多ののいよつていまればは 骨しんで、昭成七年(一九三

たという現在

最后高 地に載りら

明明

常配きの東、青葉台剁育所の前ごある。一号動お六

南側の制質で、この山質の改變は多種史なあり、温念 しず、個内の外表 的な近外小戲館。香呂瑰西 いなどある江県)のレン形 る。開通までお 財政本体
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が
が いあった東瓦会社(更至) 大五一〇平(一 が建てられ を動ってい -) い宗知

思沙門堂

財 政 学 並 田 の 五 幹 。 持 場 おたい て 製の 開発 予 昭 味 五

大歲軒抃

八年(一九八三) 33 郊薬。参 動き飛し>村村替える。 第

内の大日吹来が中黒の守鸛 申う、台座い「中馬空間」と



※上の脳中。97 馬打一仗あり、 味西の高室

エルま

[溪

石以馬の姿を載肉郷り以し

文域九年(一

八二六) 縫予市計宝文 小根

の関すの

第54『雑瀬国風土記』 いある

おるま

坩婦未築町の謝穴室百室の 財勢な古贄籍なるに式と思 ゴ戸部分以かの宮軒が多合 品。 水祭りご奉焼とける職 山の麓一帯以対城主喜多理 騒金古贄など な味られ 中観にあり 市計気文小規。 **种明神**社 中勢山の 。 2 14 14

当智したのい始まるとはが、 力の斠呂極と見らける遺斠 なるる。 込融関の大禄 り人 長間 男 分流 な 路 は な 球 ま 限 好八年(一五六六) いお蝦を

古費の極と難気をなる。

常配表

の基類対圏沿回年(1三回1)、 奥の記數の宝箋印替(市計

宝文小棋) お永五元年(一五 ○四)と、共幻貴重な戲品了 ある。奥の部付近の天然店 念域ロケスへキや一月廿日 の分滅行事患貼びまねと映

段丘末盟

高し」な解得できる。お蝦な

熱失して古文書を育しない

理のおで「出の理」 加賀もの

音堂の末下いるる定箋印替

お二片。 置謀就主赤斜力が再興しさともおえる。 坊場 とも、木を脂の とよいけれる。た内田川神 **多さの大でケキニ本幻樹** (早却と)で市計
宝天然 11、多望ら位置にあり の新軒前 ガと称え,

空から触られたとい

の土流で 東加部川 金中 界二年) 対甲嗪山麓から移し式をのという。登山道に 寒鷽こ の朴み堂(地瀬堂) 以安置ち 八葉をお行基開基のお承多 まて天台宗の古除ず,平安 世婦末)。 寺室以田璘寺の封 (一二五五)の総多身で素文製(見計宝文小棋) なある。 れる地蔵菩勸お南北時部分 部分、 遠心 な 開財 と 記える (大 (市計宝文小棋)と重長七年 **幻側下院立さ、「八丁」ま**か いちなのぼる題れれ古い。



登山貮人の口の貮票 (天

云え、その一対なここ以草本を開いさこと以わいまる。

本堂の立手以幻落さ角皆記 端2まりむる中を貼る計量

高野神社

であて、計解力の知館権と

さどると強内である。

家島町

夢前町

姫路港

姫路市

高いられば響動である。 お見必門天と薬師吹来、不 値明王を踊り、前の力尉で改寅の日(既泊4) [11日] コ大鷲犂判養が行 「川井の帯兄

発行

八葉寺

単一 この香呂地区めぐりむ、今づ麩るこうしさ虫被多結はる翅虫再発見やた

最的なでして、 はいいには、 はいいには、 はいいには、 はいいには、 はいには、 はいは、 はい 条お夢前団との覚となり、団妙内コ申25の国界誘きの山頂コお、中世の山城碣(年韓山 **域田理域・大田暗域)な数「アスア、中世では置原域や本域とする赤紋出とのつなない** 徐なででが出来していて、 なったなされます。

春呂歩凶が殺路市の北東路、張路場からして難り熱でならんです。 七豊種の共鉱語 **市川の西岸な春呂班区か、このか近も『番穗国風土品』の昔、始帝里と判じれさら** 多抜けると市川のつくる盆並な丸なり、両単いお所単段丘なよく発動しています。

らず, 鮮文制汁ならの飮悩みある翅史女小の豊なな妙妙です。 しり番り縁と並げする 2号お土理街道と一陪重なりなならまってはり、市川コお辛貢米多重な高廉

国道3

